

# 令和7年度 学校評価実施報告書

学校名: 枚方市立殿山第二小学校  
校長名: 吉村 隆也

## 1. 学校教育目標

認めあい 高めあい ひとりひとりが輝ける学校

## 2. めざす子ども像

・素直でやさしい心をもつ子 ・自分も周りの人も大切にできる、思いやりのある子 ・正しい考えをもつ子 ・学ぶ楽しさを知り、主体的・意欲的、協働的に取り組める子 ・心身ともに健康でチャレンジする気持ちをもって、最後までやり切る子

基本方針	重点項目	具体的な取組内容					
		本年度の重点的な取組(4月)	取組指標(誰が、何を、どのくらいの頻度で)	評価指標(目標※具体的な数字を入れる)	指標の結果	分析(成果と課題)	改善策
確かな学力と自立の力を育む教育の充実(学力向上プランと運動)	「わかる」「できる」を実感する	個別最適な学びを充実させるとともに、基礎学力の向上を図る。	・教師は、各教科の単元内で、児童が自分にあつた方法や学び方を自分で選ぶ場面設定を行う。(自己選択・自己決定) ・教師は、各教科の単元内で、児童が課題や問題を解決するために様々な方法を見つけ、実行することができる授業を行う。 ・算教科の始めの3~5分でまず計算に取り組む四則計算力の向上を図る。 ・学年の初めと終わりの漢字のテストを初見で行い、全学年からの伸びて定着を計測する。	・児童アンケート「授業では、自分にあつた方法や学び方を自分で選ぶ場面がある。」肯定的評価87%以上とする。 ・児童アンケート「課題や問題を解決するために、様々な方法を見つけ、実行することができる。」肯定的評価84%以上とする。 ・児童アンケート「授業の中で興味があることやわからないことがあつた時、自分の判断でタブレットを有効活用している。」肯定的評価90%以上とする。 ・算数のまず計算のタイムを全員5分以内とする。 ・学期末の漢字テストで95%以上とする。	・計算は、内容をすべて各学年に任せた結果、取り組み方によつて差が出てしまった。 ・漢字は、読書を通して新漢だけでなく、使い方も覚えられるように読書を取り入れたが、漢字の定着にまで至らなかった。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①計算の力について、計算領域の単元の時に、授業の最初に3~5分間まず計算に取り組んで、計算の力の向上を図る。</li> <li>漢字は学年初めに前学年の漢字を初見で行い、児童の漢字の定着を確認し、一年通じて当該学年の定着を図る。そして、学年終わりに学年の漢字テストを初見で行い、前学年からの伸びで定着を計測する。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①まず計算は、算数の授業のはじめの3~5分で取り組むように学年に任せたが、やり方や結果の取り方を統一していなかったため、記録を集めることによつて差が出てしまった。漢字も、大きな成果を得られなかった。</li> </ul>	<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①計算の力について、計算領域の単元の時に、授業の最初に3~5分間まず計算に取り組んで、計算の力の向上を図る。</li> <li>漢字は学年初めに前学年の漢字を初見で行い、児童の漢字の定着を確認し、一年通じて当該学年の定着を図る。そして、学年終わりに学年の漢字テストを初見で行い、前学年からの伸びで定着を計測する。</li> </ul>
	仲間と協働して学ぶ	協働的なまなびを充実させ、授業内での児童の共感的な人間関係を育む。	・教師は、相互参観期間を年間2回実施し、児童が協働的な学びを通して、自分の考えを深めたり広げたりする授業づくりを行う。 ・教師は、児童一人ひとりの考えや意見が尊重される学級経営を行う。	・児童アンケート「ペア学習やグループ学習を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」肯定的評価85%以上とする。 ・アンケート「あなたの学級は、1人1人を尊重し、安心できる場所である。」肯定的評価79%以上とする。	・アンケート「ペア学習やグループ学習を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」肯定的評価をした児童は81%だった。(昨年度94%)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②教職員の相互参観の取り組みについて、チームを組むのではなく、職員の自主性に任せた結果、空き時間のある職員が数人行く程度で終わってしまった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③自主学習のやり方が興味のあるものを調べとめることにとどまり、授業の復讐や予習を行うなどを行った児童が少なかった。自主学習の取り組み方を指導していく必要がある。</li> </ul>	<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②相互参観について、初任者・初任期など経験の浅い職員が安心していろんな授業を参観に行ける環境を作り、教職員の意識向上を目指す。</li> <li>③自主学習について、計算ドリルや漢字ドリルの復習や授業の予習など、興味のあるものを調べとめる以外のやり方を学年で統一して指導し、授業とつなげるようにする。</li> </ul>
	家庭学習を充実させる	授業と家庭学習を繋げ、学ぶ意欲を高める声掛けを行いながら、自学自習力も育む。	・教師は、児童に授業中の隙間時間の活用の仕方について考えさせ、例としてタブレット端末内のアプリ「navima」等に取り組ませる。 ・教師は、授業中、復習や予習の目的を丁寧に説明していく。	・児童アンケート「家庭での学習(宿題)は、学校の授業とつながっていると思う。」肯定的回答を93%以上とする。	・児童アンケート「家庭での学習(宿題)は、学校の授業とつながっていると思う。」肯定的回答を86%だった。(昨年度92%)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④昨年度は32名だったので、読書を習慣化する活動を昨年度から継続して取り組んだことによる成果は出ていると思われるが、若干の向上なので、今後も取り組み続ける必要がある。</li> </ul>	<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④朝読書に関わらず、隙間時間の読書や読み聞かせを行いながら、読書に親しむ時間を作っていく。また、中央図書館から学年ごとの本を借りたり、「絵本のひろば」を実施したりしながら環境整備も進めていく。</li> </ul>
	読書を習慣化する	読書を通して豊かな心情を育む。	・朝学習を読書中心に取り組む、児童の読書への意識向上を目指す。 ・図書委員会を中心に、読書ノートを活用しながら、低・中学年は100冊、高学年は50冊の目標に達した児童の、読書記録を表彰する場を設定する。 ・「えほんのひろば」を開催することで、様々な本との出会いの場を設け、読書をする楽しさを感じられるようにする。	・読書ノートを活用して、年間で低・中学年は100冊以上、高学年は50冊以上を目標に読書に取り組む。 ・「えほんのひろば」を開催する前後でアンケートをとることで、本への興味の向上を目指す。	・低学年100冊、高学年50冊達成した児童は、今年度は37名となった。		
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実(体力向上プラン・道徳教育全体計画等と運動)	豊かな心を育成する	・自尊感情を高める。 ・素直に挨拶することができる児童の育成を図る。	・アンケート「自分には、良いところがあると思う。」肯定的評価84%以上とする。 ・アンケート「友達や先生、地域の人たちに挨拶をしていると思う。」肯定的評価95%以上とする。	・アンケート「自分には、良いところがあると思う。」肯定的評価70%。 ・アンケート「友達や先生、地域の人たちに挨拶をしていると思う。」肯定的評価85%。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 学校生活の基盤となる生活習慣や日常の楽しさは高い水準で維持されており、子どもたちが安心して学校生活を送れていることがうかがえる。</li> <li>2. 挨拶やいじめ防止に関する意識が非常に高く、学校全体として良好な人間関係づくりが進んでいる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 全体的に昨年度より数値が低下している。肯定的評価は高いものの、昨年度より軒並み低下している。</li> </ul>	<p>(1) 自己肯定感を高める指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個々の努力や成長を具体的に認める言葉がけの徹底</li> <li>②学習や生活の中で成功体験を積み重ねられる活動の工夫</li> <li>③児童同士が互いの良さを伝え合う場(振り返り、学級活動)の充実</li> </ul>	
	自己有用感を向上させる	・話し合いを通して、お互いを尊重しながら解決方法を見つけていく児童の育成を図る。	・教師は、児童が「学校生活の中で楽しいと感じることがある。」と思える学級経営・授業改善を行う。 ・教師は、児童に「頑張ったこと・貢献していること」等、常に児童の頑張りを褒めたり励ましたりしていく。 ・児童会が中心となり、学校をよりよくなる活動を実行していく。	・アンケート「学校生活の中で楽しいと感じることがある。」肯定的評価97%以上とする。 ・アンケート「担任の先生等は、頑張ったことをほめてくれる。」肯定的評価94%以上とする。 ・アンケート「学校生活をよりよくなるために、話し合い、互いの良さを生かして、解決方法を決めている。」肯定的評価95%以上とする。 ・アンケート「人の役に立つことは大切だと思う。」肯定的評価95%以上とする。	・アンケート「学校生活の中で楽しいと感じることがある。」肯定的評価87%。(昨年度88%の間違ひだった。) ・アンケート「担任の先生等は、頑張ったことをほめてくれる。」肯定的評価84%。 ・アンケート「学校生活をよりよくなるために、話し合い、互いの良さを生かして、解決方法を決めている。」肯定的評価81%。(昨年度未実施) ・アンケート「人の役に立つことは大切だと思う。」肯定的評価78%。(昨年度未実施)	<p>(2) 相談しやすい学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①相談窓口(担任、心の教室、地域支援員等)の役割や利用方法の周知</li> <li>②日常的な対話の時間を確保し、教師との信頼関係を深める</li> <li>③学級での「困ったときにどうするか」を考える指導の継続</li> </ul>	
	体力を向上させる	・体を動かすことが楽しくなるような企画を体力向上部や体育委員会が中心となり発信していく。	・教師は、授業や休み時間を通して、児童が体を動かすことの楽しさを実感できるような取り組みを行う。 ・体力向上部や体育委員会が委員会活動を中心に「仲間づくり」「集団遊び」等、みんなで体を動かすことの楽しさを実感できる企画を提案していく。 ・教師は、児童に授業の初めの10分程度、鉄棒、なわとびに取り組ませ(サーキット形式も可)、児童の体力向上に努める。 ・教師は、体育科を中心とした校内研究を行う。	・児童アンケート「運動をすることは楽しい。」肯定的評価91%以上とする。 ・児童アンケート「体育の授業は楽しい。」肯定的評価91%以上とする。 ・学期に1回、体育科の研究授業を行う。 ・学期に1回、体力向上月間を持つ。	・児童アンケート「休み時間等に体を動かすことは楽しいと思う。」肯定的評価86%以上。 ・児童アンケート「体育の授業は楽しいと思う。」肯定的評価86%以上。(昨年度未実施) ・学期に1回、体育科の研究授業を行った。 ・各学年に応じて、授業の初めに縄跳びやサーキットに取り組んだ。2学期に縄跳び大会、3学期は、ボール投げ月間を実施した。	<p>(3) 主体的・協働的な学びの定着に向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学級活動や教科での話し合いの質を高める授業改善</li> <li>②互いの良さを生かし合うグループ活動の充実</li> </ul>	
	食育を推進する	・規則正しい生活習慣の徹底を促す。 ・食に関する教材を活用しながら、「健康」について考える場面を様々な工夫とする。	・管理職は、集会や学校ブログ、学校だよりを通して規則正しい生活習慣について啓発していく。 ・教師は、食に関する事柄の教材を通して、食育指導を行う。	・保護者アンケート「規則正しい生活を送っている。」肯定的評価88%以上とする。 ・児童アンケート「給食時間の時等、食べることの大切さを感じることができている。」肯定的評価91%以上とする。	・保護者アンケート「規則正しい生活を送っている。」肯定的評価85%。 ・児童アンケート「学校で給食で、食の大切さを学んでいる。」肯定的評価87%。	<p>(4) 家庭・地域との連携強化による生活習慣の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者への情報発信(生活リズム、睡眠、食育など)の継続</li> </ul>	
教職員の資質と指導力の向上	働き方改革を図る	・会議資料の事前共有を図る。 ・児童理解の時間、授業準備にかかる時間を確保する。	・全体の会議に要する時間を削減する。 ・授業時数の見直しを行う。 ・管理職や働き方改革部を中心にストレスチェック等の分析を行い、「働きがい」と「働きやすさ」のある職場環境にしてい	・平均の年間時間外勤務時間の削減(26時間以内) ・R6年度(6月~12月)のストレスチェックでは、男女ともに自覚的な身体的負担度が多いが高かった。今年度は、組織平均の2.7とする。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 授業改善に向けた取り組みについて、研究授業に向けて、指導案検討や授業改善の協議会を複数回実施し、授業の質向上に向けた協働的な改善サイクルが機能した。</li> <li>2. 校内研修の充実 夏休みに立候補制の自主研修会を実施し、教職員の主体的な学びを促進した。</li> <li>3. スポットサポート担当の支援を柔軟に受け入れ、必要な場面で専門的助言を得ることで、授業力向上につなげた。</li> </ul>	<p>(1) 時間外勤務について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①1月から3月までの記録を入れると多少は数字も下がると思うが、根本的に教職員の時間外勤務に対する意識の向上が必要だと思う。来年度、子どもたちのために必要なことと、そうでないことをしっかり精査した上で業務の見直しを進めていく。</li> </ul>	
	校内研修体制の整備を行う	・校内研の事前授業の参加者を増やし、事前検討会を充実させ授業力向上を図る。 ・中高担任でチームを組み授業参観を行い授業力向上を図る。	・校長は1日1回以上各クラスの授業参観を行い、指導・助言をする。 ・管理職、首席は授業等について担任等とコミュニケーションを図りながら、教職員が学校運営に意欲的に関わるよう意識向上を図っていく。 ・教師は、主体的な研修会を実施する。	・研究授業の前の事前授業後、指導案検討、授業改善についての協議会を1回以上持つ。 ・チームによる授業参観を年2回以上実施する。 ・学期に1回、立候補制で自主研修会を行う。	・研究授業の前の事前授業後、指導案検討、授業改善についての協議会を1回以上持つことができた。 ・チームによる授業参観を年2回以上実施できたのは22クラス中15クラス、全体の68%。 ・夏休みに立候補制で研修会を行った。	<p>(2) 授業参観による自己研鑽について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①相互参観期間を設けたりペアをつくらしたりして、参観する環境を整える。参観期間中の会議はなしにする。</li> </ul>	
	初任期指導体制の整備を行う	・月に1回、相談の時間を設ける。 ・経験の浅い教師が授業参観できるようにして授業力向上を図る。 ・スポットサポート事業を活用する。	・初任者が月に1回は授業参観を行う。 ・初任者が月に1回は学級運営等の相談できる場を設ける。 ・隔月に1回、スポットサポートに依頼依頼する。	・初任者が月に1回は授業参観を行い放課後、参観した授業の内容について振り返りの場を持つ。 ・初任者が月に1回は学級運営等の相談できる場を設けて学級運営の支援をする。 ・スポットサポート担当の方に隔月1回以上、授業参観していただき授業力向上につなげる。	・初任者に月に1回の授業参観の機会を設けることはできなかったが、適宜実行した。また、初任者自ら参観を行うことができた。 ・初任者が月に1回は学級運営等の相談できる場を設けて学級運営の支援を行った。 ・回数にこだわらずスポットサポート担当に来ていただき、授業力向上につなげた。	<p>(3) 初任期指導体制の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①初任者が安心して他のクラスへ授業参観に行けるように、授業を交替する等して月に1回(45分ではなくても)は取り組みを進めていく。</li> <li>②今後もスポットサポートを依頼する。</li> </ul>	
学びのセーフティネットの構築	安心して学べる場所の確保	・不登校や虐待等、未然防止や早期発見ができるように定期的なアンケートを実施する。 ・校内教育支援ルームを活用していく。 ・心の教室やスクールカウンセラーを紹介していく。	・相談前等、年6回アンケートを実施しいじめ等の早期発見に努める。 ・集会や学校だより等で心の教室やスクールカウンセラーを紹介していく。	・児童アンケート「命や友達を大切にしている。」肯定的評価94%以上とする。 ・保護者アンケート「学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。」肯定的評価をした保護者の割合98%以上	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 児童の85%が「安心して学べる学級」と回答し、学級づくりの取組が概ね成果を上げている。</li> <li>2. 保護者の94%が安全配慮を高く評価しており、学校の安全管理が信頼されている。</li> </ul>	<p>(1) 安心・安全な居場所、いじめ防止の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもたち、保護者にとって学校が安心安全な場所になるよう、ポジティブ行動支援を行っていく。</li> <li>②児童会等、子供発意による取り組みも考えていく。</li> <li>③教職員全体で同じ方向を向いて取り組みを進められるように、職員会議や打ち合わせで研修を行っていく。</li> <li>④いじめ事案に対しては、「些細なこと」と切り捨てずに丁寧に対応していく。</li> <li>⑤学校だより等でのいじめ防止の具体的な取り組みや相談体制を積極的に発信していきたいながら、専門家と児童・保護者をつなげていく。</li> <li>⑥いじめ防止やSNSの危険性について保護者学習会を持ち研修活動を進めていく。</li> </ul>	
	安全教育を推進する	・避難・災害時訓練、Jアラート等、訓練は常に本気で取り組む。 ・放送や集会時、集団で話をさく場面は、真剣にきく姿勢を徹底する。	・年間6回以上、訓練を実施する。 ・教師は、年間6回以上、災害時の避難の仕方について指導する。	・保護者アンケート「学校は子供たちの安全配慮や事故防止に努力している」肯定的評価をした保護者の割合を97%以上	・保護者アンケート「学校は子供たちの安全配慮や事故防止に努力している」肯定的評価94%。	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 一部の児童は学級に十分な安心感を持っていない可能性がある。</li> <li>2. いじめ防止の取組は他項目より評価が低く、保護者への周知が十分でない。</li> </ul>	

家庭・学校・地域の連携	情報発信を充実させる	・学校運営協議会を年4回以上持ち情報共有を行う。 ・ブログで日々の学校の様子を発信していく。 ・学校だよりで学校の様子等を伝えていく。	・校長は、日々ブログや学校だより等でリアルタイムな情報を正しく伝える。	・保護者アンケート「学校は学校だよりやブログ等を通じて、学校や子供の様子を伝えている」わかりやすく伝えている」肯定的評価99%以上	・保護者アンケート「学校は学校だよりやブログ等を通じて、学校や子供の様子を伝えている」わかりやすく伝えている」肯定的評価97%以上	【成果】 1. 学校だよりやブログでの情報発信は97%以上が肯定し、保護者・地域との連携も94%が評価している。 【課題】 2情報発信が届きにくい家庭への配慮や、地域・保護者がさらに関わりやすい仕組みづくりが必要。	(1) 保護者・地域との連携について ①学校の取り組みを積極的に発信していく。 ②保護者や地域が学校と連携して取り組める場や学習会ができるような場の設定を考えていく。(いじめ学習会、救命救急等)
	家庭との連携の充実を行う	・地域や保護者、取っ組み保護者会の協力依頼や話し合いを随時設定する。	地域や保護者、取っ組み保護者会の方々に行事等のボランティアを募る。	保護者アンケート「学校は保護者の方や地域と連携している」肯定的評価98%以上	保護者アンケート「学校は保護者の方や地域と連携している」肯定的評価94%。		

学校関係者評価(学校運営協議会または学校評議員と保護者からなる学校関係者評価委員会による)年度末	
評価結果	改善に向けた方策
<p>本年度の学校自己診断(保護者アンケート・児童アンケート)の結果では、昨年度よりも評価が低下した項目が複数見られた。これらの結果は、学校の取組が十分に伝わっていない部分や、保護者・児童が抱える不安や課題が顕在化したものと捉えられる。寄せられた否定的な意見については、その背景にある思いや状況を丁寧に受け止め、改善可能な点を明確にし、今後の教育活動に反映していくことが重要である。</p> <p>また、センシティブな児童をはじめ、さまざまな課題を抱える児童が在籍している現状を踏まえると、これまで以上に児童一人ひとりの気持ちに寄り添った支援が求められる。児童が安心して学校生活を送るためには、日常的な声かけや丁寧な観察、個別の状況に応じた柔軟な対応が欠かせない。さらに、保護者とのより良い関係づくりに向けて、連携の機会を創意工夫しながら設定していくことも重要である。こうした取組は、児童と教職員の信頼関係を深めるだけでなく、保護者とのつながりをより豊かなものにし、学校全体の教育力向上にも寄与すると考えられる。</p> <p>加えて、情報発信の手段や受け取り方が多様化している現状を踏まえると、学校としては、誰にとっても分かりやすく、丁寧な情報提供を心がける必要がある。学校だよりやブログ、まなびポケットなど、複数の媒体を適切に活用し、保護者が必要な情報を確実に受け取れる環境づくりを進めていくことが求められる。</p> <p>今後も、保護者や地域と連携しながら、より開かれた学校づくりを推進し、児童が安心して学び、成長できる教育環境の充実を図っていく。</p>	<p>本年度の学校自己診断において、昨年度より評価が低下した項目が見られたことを受け、まずは保護者や児童から寄せられた意見の背景を丁寧に把握し、改善につながる課題を明確にする体制を整える。特に、学校の取り組みが十分に伝わっていない可能性がある項目については、情報の届け方や説明の方法を見直し、学校の意図や取り組み内容がより正確に伝わるよう工夫していく。</p> <p>また、センシティブな児童を含む多様な背景をもつ児童が在籍している現状を踏まえ、児童一人ひとりの気持ちに寄り添った支援を強化する。日常的な声かけや観察を通して児童の変化を早期に捉え、必要に応じて個別支援や関係機関との連携を図ることで、安心して過ごせる学級づくりを推進する。</p> <p>さらに、保護者との信頼関係を深めるため、取っ組み保護者会や学級活動、地域との協働の場など、交流の機会を創意工夫しながら設定する。保護者が学校の教育活動に参加しやすい環境を整えることで、学校と家庭が協力して児童を支える体制をより強固なものにしていく。</p> <p>加えて、情報発信の手段や受け取り方が多様化している現状を踏まえ、学校だより、ブログ、まなびポケットなど複数の媒体を効果的に活用し、誰にとっても分かりやすく、必要な情報が確実に届く発信方法を検討する。情報の受け取りやすさに配慮した丁寧な発信を継続することで、保護者の安心感や学校への信頼を高めることが期待される。</p> <p>これらの改善策を着実に進めながら、今後も保護者や地域と連携し、児童が安心して学び、成長できる教育環境の充実を図り、より開かれた学校づくりを推進していく。</p>